



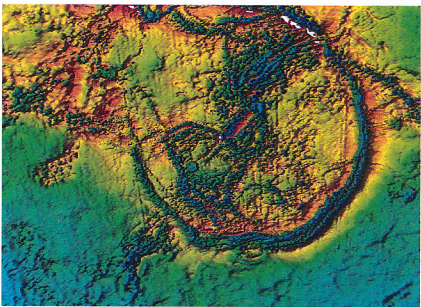
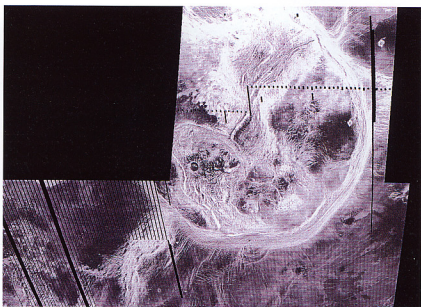
特集：宇宙・惑星・地球

Magellan CD-ROM
のデータ

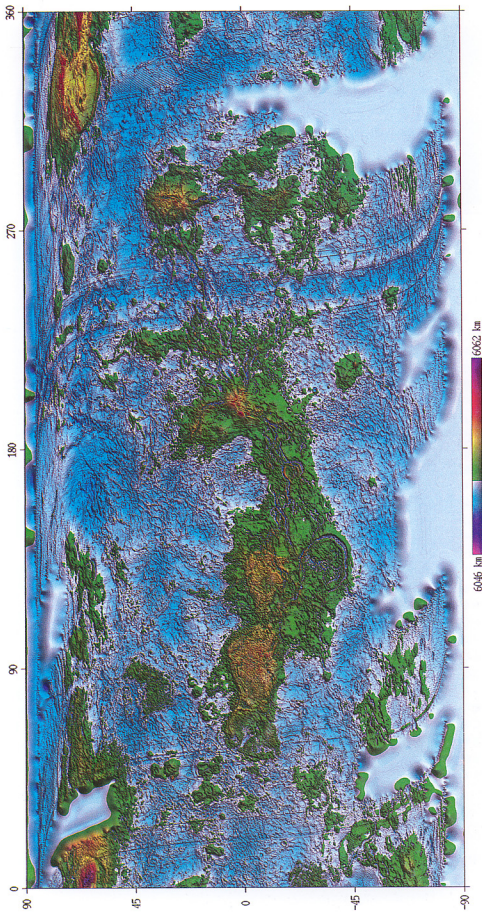


1.金星表面の経度 135°E、緯度 30°S 付近にあるアルテミスコ罗纳の合成開口レーダー画像(上図)と地形図(下図)。レーダー画像は金星表面のマイクロ波の後方散乱率(主に物質の違い)を、また、地形図はマジellan探査船のレーダー高度のデータから得られた金星の中心から表面までの距離(金星半径)分布を示している。両図とも横幅は 3840 km、縦幅は 3072 km である。

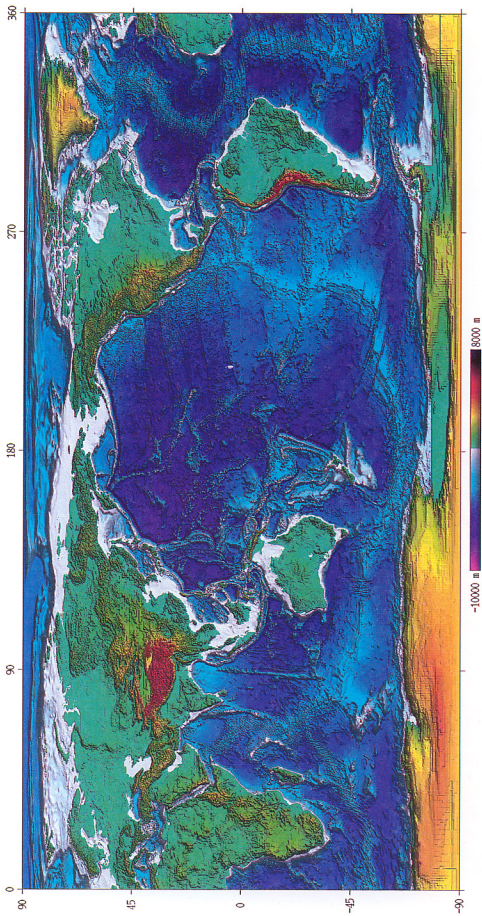
これらの図で特徴的な円弧状の大地形(コ罗纳)は、地球の島弧・海溝系の地形と非常に似ている。地球と比べると円弧の曲率がやや大きいが、円弧の外側から順に地球のフォアバルジに相当する高まり、海溝状の溝、そして島弧状の起伏などの地形が目につく。コ罗纳の成因については、地球のマントル対流のような金星内部の大規模な地質現象と結び付けた議論が、現在も国内外で活発に行われている。



(地質調査所
地質情報センター
中野 司)



2. マジェラン探査船の得たおよそ280万点のレーダー高度データから作成した金星の陰影付き地形図。金星中心から表面までの距離（金星半径）の分布を示している。おもな大地形の名称は以下の通り：アタランタ平原（経度162°、緯度54°）、ラビニア平原（350°、-45°）、ラクシユミ平原（350°～5°、60°～75°）、アルファ地域（0°～10°、-20°～-30°）、ヘル地域（45°～55°、25°～35°）、ベータ地域（290°～0°、25°～35°）、アイストラ地域（50°、10°～25°）、メチス地域（255°～5°、72°）、オプダ地域（0°～108°、-10°～5°）、テルス地域（80°、35°）、テチス地域（8°～140°、-2°～-15°）、アフロディテ大陸（5°～130°、5°～10°）、イシュタール大陸（5°～25°、60°～75°）、ラタ大陸（5°～110°、-40°）など、上下方向緯度+90°～-90°、左右方向経度-180°～+180°。



3. 地球の陰影付き地形図。
ETOPO-5 デジタル地形データ (NOAA, 1988) を用いて作成した。陰影の表現は前ページの金星の地形図と同じにしてある。